

## 令和7年度第4回 自転車の活用推進に向けた有識者会議 議事概要

### 1. 開催日時等

日時	令和8年3月9日(月) 10:00~11:30
会場	中央合同庁舎第2号館 地下1階 第2会議室AB (WEB併用)
議事	(1) 第3次自転車活用推進計画(素案)に対する主な御意見(パブリックコメント)及びそれに対する考え方(案) (2) 第3次自転車活用推進計画(案) (3) 今後の予定
委員	屋井 鉄雄(委員長) 入谷 誠、楠田 悦子、久野 譜也(WEB)、久保田 尚、高井 幸次郎、高橋 信行(WEB)、内藤 久土、畑中 絹代、矢ヶ崎 紀子、羽原 敬二(WEB)
行政 (対面)	内閣府(政策統括官(共生・共助担当))、警察庁、経済産業省、環境省、観光庁、国土交通省総合政策局・都市局
行政 (WEB)	デジタル庁、内閣府(大臣官房)、金融庁、消費者庁、総務省、スポーツ庁、厚生労働省、農林水産省、林野庁、国土交通省鉄道局・物流・自動車局・道路局事務局 国土交通省道路局自転車活用推進本部事務局

### 2. 委員からの主な意見

- (1) 第3次自転車活用推進計画(素案)に対する主な御意見(パブリックコメント)及びそれに対する考え方(案)【資料1-1、1-2】
- (2) 第3次自転車活用推進計画(案)【資料2-1、2-2】 ※議事(1)及び(2)を一括して審議
  - ・全体的に良くまとまっており、主要ポイントはほぼ網羅されている。(全委員)
  - ・目標1-施策2-措置⑤は、文章を2つに分割するなど、読みやすさを意識すること。(久保田委員)
  - ・【資料2-1】39頁の目標3の表記(地域の良好な)が、他の箇所と異なるため統一が必要。(内藤委員)
  - ・【資料2-2】は行政資料としては簡潔にまとまっている。(屋井委員長)
  - ・目標1の走行環境の整備は、他の目標達成のための基盤としても重要。(入谷委員)
  - ・日本は世界的に見ても自転車利用の多い国であり、海外に学ぶばかりではなく、自信をもって発信することとのバランスが重要。(楠田委員)
  - ・生活道路における通行空間の確保に言及したことを評価。今後も課題として取り組んでほしい。(久保田委員)
  - ・自治体における取組推進のためには、地方版自転車活用推進計画策定の手引きの実効的な見直しが重要。縦割りをなくし、自治体のトップを巻き込めると良い。(高井委員)
  - ・交通事故の指標を割合で記しているが、人口動態も踏まえ、件数(絶対数)との両輪で管理できると良い。(内藤委員)
  - ・事例への理解を深めるため、会議開催だけではなく、委員にも現場を見ていただくよ

うな柔軟な場の設定があっても良い。(屋井委員長)

- ・(母が自転車同士の事故で重傷となったことを受けて)高齢者の自転車利用においては、①ヘルメット着用の徹底、②自転車対自転車の事故への対応(速度差のある自転車の追い越し、自身の怪我に対する自転車保険など)、③自転車に乗る高齢者を周りが守ること、などが重要と感じている。(畑中委員)
- ・【資料2-1】15頁・5行目でアドベンチャーツーリズムの市場規模の記載があるが、2024年時点で1兆米ドル規模という別の統計もあるので観光庁と相談して見直してはどうか。17行目以降の国際会議については、知識や人脈、技術など、双方向での交流が重要であり、今回の記載の追加を評価。オーバーツーリズム対策に自転車が役立つと考えるが、ガイドや自治体、DMOなど現場における交通ルール・マナーの理解促進の取組が不可欠。(矢ヶ崎委員)
- ・自転車通勤の導入促進のためには、夏季のシャワー施設やヘルメットの格納スペース等の整備も必要ではないか。(久野委員)
- ・自転車通行空間における自動車の駐停車対策について、市町村が実施したくても県警のリソースを割けない場合があるので、警察庁からも働きかけて欲しい。(高橋委員)
- ・駐車対策よりも、停車対策の方が重要なポイント。警察と道路管理者が一体となりながら、安全な走行環境整備を進めていただきたい。(屋井委員長)
- ・交通安全対策については全て盛り込まれている認識。今後は新たな事故形態の変化も注視すべきと考える。(羽原委員)
- ・自転車産業への目配せの観点から、地域の点検整備に係る環境について記載を充実できないか。(楠田委員)
- ・全体的に前向きかつチャレンジングな計画となっている。走行環境整備は最重要事項であると考えており、警察と道路管理者の協力的な計画推進に期待。(屋井委員長)

### (3) 今後の予定【資料3】

- ・計画(案)へ意見の反映については委員長への一任とさせていただくことを確認。(屋井委員長)

(以上)